

令和元年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 遂行状況・活動状況報告書

事業名:「土佐の森式軽架線集材」導入検討事業(H29)

団体名: 秩父樹液生産協同組合



事業の目的・内容

比較的低コストで始められる集材方法である「土佐の森式軽架線集材」について調査し、運用方法について検討、研究を行う。



今までの活動状況

平成 29 年 11 月 11 日、高知県香美市にある甫喜ヶ峰公園にて行われた土佐の森式軽架線実習に参加し、軽架線集材を行っている様子を視察した。また、12 日、同日高村にある木の駅ひだかの NPO 法人土佐の森・救援隊事務所へ訪問し、取り組みについて話を聞くことができた。

一般的に、山林で行われている集材方法には、林内に作業道を整備し、丸太を掴むグラップルの付いたトラクタを走らせ集材する車両集材と、スキー場のリフトのように、ワイヤーを使って丸太を引き寄せる架線集材とがあるが、どちらの方法も大型の重機と専門的な資格や技術を必要とする。

しかし、土佐の森式軽架線集材では小型の林内作業車を用いて行うため資格等は必要無く、マニュアルを理解しそれにしたがって行えば誰でも安全に作業できる。その為、森林ボランティア団体など間伐や集材を専門としない団体や、比較的安価な初期投資で集材を行いたい団体が導入するのに適した集材方法であると考えられる。

令和元年に入り、大滝地域（栃本区）にて古民家と山を購入した方と検討を重ね、軽架線集材の導入を決めた。5 月 11 日に栃本区の私有林にて集材を実施した。比較的安価で専門知識がなくても行える事が確認できた一方で、集材効率が悪いなどの課題も見えた。



これからの活動・行事

今後も効率的かつ比較的安価な集材方法について検討を行っていく。